

原稿「へんしん～変わっちゃうよ～」

対象：小学校3年生 甲賀市甲南図書交流館 吉田典史

※このブックトーク原稿は、原稿の書き方や全体の構成の参考にしていただくために掲載したものです。この原稿を使用されたい場合は、発行者までご連絡ください。
※所属は、2020年3月段階のものです。

ブックトークとは、いろいろなテーマに沿って本を紹介することです。
おはなし会とは違い、途中までしか読まなかったり、内容だけを紹介するだけの本もあります。
終わってから、「続きが気になるな、あの本が読みたいな」と思う本が一冊でもあればうれしいです。
この間、授業で大豆がいろんなものになっているということを習ったと聞きました。そこで、今回は「へんしん～変わっちゃうよ～」というテーマで本を紹介していきたいと思います。
さてなにが変わってしまうのか、お楽しみに。

さて、授業で大豆がいろんなものになっているということを習ったと聞きましたが、姿を変える食べ物は大豆だけではありません。

『すがたをかえる食べ物 2』

このシリーズでは、大豆だけでなくいろんな食べ物が変身したものが載っています。

みなさん、お米が何に変身するのかわかりますか？

そう、ごはんですね。お米は、炊飯器などで炊くとご飯になります。

→ (p16を開く)

他には？そう、最近食べたでしょうか、お餅です。もち米を蒸して臼と杵でついたらお餅になります

→ (p32を開く)

このお餅がさらに変身したものがひなあられです。

→ (p34を開く)

まだまだありますよ、お酒やお酢、油やお茶まで。どのようにして、お米が変身していくのでしょうか。

この本を読んで確かめてみてくださいね。

お米からご飯に変身するには30分から40分、お餅に変身するには数時間、雛あられに変身するには何日かかかります。でも、中にはもっともっと長い時間をかけて変身するものがあります。それは石です。

『いしのはなし』

石の素は、地面の下深くにあるマグマです。

→ (マグマのページを開く)

このマグマが噴火によって外へでたり、地下深くで固まったりして石になります

す。

石にはいろんな種類があります。これはラピラズリという石です。いろんな種類の石が混ざってできた石ですね。

→ (ラピラズリのページを開く)

石はとてつもなく長い時間をかけて変わっていきます。削られて押しつぶされて、熱されてまた違う石に変わっていきます。

他にもこの本には、世界で一番大きな石や古い石、宇宙から来た石など様々な石や、人が石をどのように使ってきたかが載っています。

→ (隕石のページを開く)

石はとんでもなく長い時間をかけて変身しますが、ちょっとの間にいつのまにか変わってしまうものもあります。

友だちのところへ遊びに行く間に変わってしまったお話を紹介します。

『ハンダのびっくりプレゼント』

→ (アボカドまで読む)

さて、この後、持って行った果物がアケヨの好きなものになっていました。

どうしてかは、この本を開いて確かめてくださいね。

このおはなしはアフリカのお話でした。色んな動物が出てきましたが、外国では動物達はどのように鳴くのでしょうか？

そんな疑問に答えてくれる本を紹介します。

『うしはどこでもモー』

→ (p13まで読む)

この後、あひるとにわとりも出てきます。それぞれ何と鳴くのでしょうか？

最後のページには一覧もついていますので、また見てみてください。

国が違くと、動物の鳴き声まで変わってしまいました。

身近な動物、いぬが登場しましたが、今度は自分の飼いなこが入れ替わってしまったんじゃないかと疑う子どもが登場するお話です。

『ねこのパーキンスのおみやげ』

目が不自由なデイビッドは、ねこのパーキンスといつも一緒。これまで、一緒に遊ぶ友達もいなくてさみしかったのですが、パーキンスがきてからは、いつでもどこでも寝るときでも一緒。もうパーキンスなしではいられないと思うほどでした。ところが、デイビッド一家は、遠い親戚の家を訪ねることになりました。ねこを飛行機に乗せることはできません。デイビッドはパーキンスを置いていくのが嫌でしたが、しづしづ承知してついていきました。

そして、旅行から戻ると…。

→ (p87~89を読む)

パーキンスの様子が違います。デイビッドは、これは本当にパーキンスなのかと尋ねますが、家族はみんな「どう見てもパーキンスに間違いない」といいます。

デイビッドは「触った感じがパーキンスじゃない」と言い張るのですが…

さあ、どっちの言っていることが合っているのでしょうか？

ちょっと長くて難しい本かもしれませんが、気になった人は挑戦してみてください。

さて、ねこは入れ替わっていたのか、だとしたらどこへ行ってしまったのか気になりますよね。気が変わってどこかへ行ってしまったのでしょうか？
今度はねこの気持ちが変わってしまうお話です。

『にゃーご』

→ (p5) を開く

三匹の子ネズミの前に大きなねこが現れます。ところが、子ネズミは逃げるところか、一緒にモモをとりに行かないかとさそいます。

おいしいモモに加えてネズミを三匹も食べられると思ったねこは、子ネズミを連れてモモを取りにいきました。そして…

→ (p19~20) を読む

さて、このあとねこは三匹を食べることなく去っていきました。

どうして気持ちが変わってしまったのでしょうか。

この本を通して読むとわかるかもしれません。

気持ちが変わってしまうのは、ねこだけではありません。

人間だって、気持ちが変わることがもちろんあります。怒ったり悲しかったのがいつの間にかすっきりした気持ちになることもありますね。

それはどうしてでしょう？ ちょっと不思議なこんな本を紹介します。

『ごきげんぶくろ』

この本に登場する、かなは友だちとケンカをして友だちの家を飛び出しました。家に帰ろうとしたのですが、道に迷ってしまいます。そんなときに見つけたのが、小さなお店。

→ (p20) を開く

看板はかたむいているし、壁はでこぼこでつたが這っています。

中に入ると…

→ (p28) を開く

魔女みたいなおばあさんがいて、天井からぶくろがたくさんつってあります。

おばあさんは、こんな風にいいました。

→ (p36 の 2 行目からおばあさんのセリフを読む)

さて、ふきげんを売るってどういうことでしょうか。そして、ふきげんを集めてどうするのでしょうか。

この本を読んで確かめてみてください。

人の機嫌って結構すぐが変わってしまうイメージがあります。でも、習慣とか性格とかってなかなかすぐには変えられないですよね。次に紹介する本には、長い間、誰とも接することなく一人で生きてきた男の子が登場します。

『ふしぎな木の実の料理法』

この本に登場する、スキッパーと一緒に住んでいたバーバさんが旅に出てから三ヶ月、ずっと一人で暮らしてきました。

家の外に出たのも数えるほど、本を読んだり、化石を眺めたり、星を見たりして、誰とも話をせずに生活してきたのですが、そのバーバさんから郵便が届いたことにより、その生活が変わることになります。

バーバさんから届いたのは、ヤシの実より小さくりんごより大きな茶色く固い木の実でした。そして添えられた手紙がこれです。

→（見開きを拡大してみせる）

配達途中で雪にぬれてしまったので、手紙の一部がにじんで読めません。しかし作り方を知っている人が、近くに住んでいるようです。その誰かを訪ねていかねばなりません。

人と話をしたこともなかったスキッパーですが、木の実の料理法を知るために少しずつ近くの人とかかわって、変わっていきます。

長くて難しい本かもしれませんが、スキッパーがどう変わっていったのか、この木の実はどうやって料理するのか確かめてみてください。

さて、ここまで「へんしん～変わっちゃうよ～」というテーマで本を紹介してきました。姿かたちが変わるものから、心や気持ちが変わっていくものまでありましたが、読んでみたい本はありましたか？

今日紹介した本のリストをお渡ししておきます。

また、今日紹介した本はこのクラスにおいて帰りますので、気になった本があったら、後でゆっくり読んでみてくださいね。

それでは、ブックトークを終わります。

へんしん～変わっちゃうよ～

『すがたをかえるたべもの2 米がへんしん!』

学研プラス



『いしのはなし』

ダイアナ・アストン文 シルビア・ロング絵 ほるぷ出版



『ハンダのびっくりプレゼント』

アイリーン・ブラウン 作 光村教育図書

『うしはどこでもモー!』

エレン・スラスキー・ワインスティーン 作



ケネス・アンダーソン 絵 すずき出版



『ねこのパーキンスのおみやげ』

イエトマン 作 こうもとさちこ 絵 偕成社

『にゃーご』

宮西達也 作・絵 すずき出版

『ごきげんぶくろ』

赤羽じゅんこ 作 岡本順 絵 あかね書房

『ふしぎな木の実の料理法』

岡田淳 作 理論社

